

## トヨタとパナソニックが車載用角形電池事業の協業について検討を開始 ～車載用角形電池の進化を目指す～



トヨタ自動車株式会社(本社:愛知県豊田市、代表取締役社長:豊田章男、以下「トヨタ」と)と、パナソニック株式会社(本社:大阪府門真市、代表取締役社長:津賀一宏、以下「パナソニック」)は本日、車載用角形電池事業について協業の可能性を検討することに合意しました。

今回の合意は、地球温暖化、大気汚染、資源・エネルギー問題という社会問題の解決に貢献し、また、電動車への需要と期待の高まりに応えるために、電動車の中核となる車載用電池の更なる進化を目指すものです。

両社は、1953年の取引開始以来、長年にわたり、モノづくりに携わる者として互いに切磋琢磨してまいりました。昨今両社を取り巻く環境が激変する中、日本発のモノづくりで世界に貢献するため、信頼できるパートナーと従来の枠を超えて、新しい価値創造に挑んでいくことが重要との認識で一致しました。

トヨタは、持続可能なモビリティ社会の実現に向け、世界初の量産HV車「プリウス」を発売し(1997年)燃料電池自動車「MIRAI」を発売する(2014年)など、困難な課題に挑戦してきました。これまで磨き続けてきた、車両電動化技術および商品化における知見や蓄積をもとに、お客様のライフスタイルや地域性に適合した、HV、PHV、FCV、EVなどさまざまなエコカーの開発に取り組んでいます。

パナソニックは、車載用リチウムイオン電池事業を重点事業の一つと位置づけており、車載用電池に求められる様々な要求事項を実現させる技術力を評価いただき、世界の多くの自動車メーカーで採用されています。現在、車載用角形電池については、これまで培ってきた電池事業での技術的な知見やノウハウを活かし、さらに安全で高容量の電池の実現に向け挑戦を続けております。

トヨタとパナソニックは電動車の一層の普及に向けて、車載用電池の性能・価格・安全性等の更なる進化と安定供給能力の重要性を認識しております。今回、両社は業界ナンバーワンの車載用角形電池を実現し、トヨタのみならず、広く自動車メーカーの電動車の普及に貢献すべく具体的な協業内容を検討していきます。

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。